

新宮山彦ぐるーぶ第1938回

## 竹林院・大峯奥駈修行(玉置神社)吹越宿跡)の

### 金剛多和での湯茶等接待

◇実施日：平成29年07月09日(日) 曇り時々薄日後雨

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、畑清秀味、

畑林清子、大江加予子、高階美根子、奥村順夫、

竹中卓治、田中稔昭。 11名。

竹林院の第70回大峯奥駈修行は、9日(日)玉置神社(本宮大社。10日(月)小口(大雲取越え)那智山・青岸渡寺。11日(火)速玉大社)花の窟。実施の参加案内が、玉岡相談役宅にあり、塩川正十郎先生・卒寿祝賀会が竹林院で開催(平成23年10月)するなど、平素よりご厚誼頂いていることから、金剛多和で修行支援の湯茶等接待をする事にした。

前々日に、事務局から参加者人員と玉置神社出発時刻を電話で確認し、金剛多和に10時迄に到着するため新宮7時発とした。世界遺産・熊野本宮館駐車場で海山・尾鷲組3名と大阪府大東市から久しぶりに参加の田中氏と7時半過ぎに合流し、沖崎・奥村・川島車の3台に分乗し山在峠へ8時着。

本来なら上切原集落から金剛多和を経て篠尾集落への生活古道から登るのであるが、平成23年9月の紀伊半島豪雨により、山腹が崩壊したために、崩壊地の尾根へ登る迂回路を辿る事から、時間的ロスもあり、又8月の鳥海山遠征トレーニングを兼ねて山在峠から登ることにした。川島は上切原の下モ谷山腹崩壊地の山腹工事道から登った事が無く、畑林秀の案内で児嶋氏と登る事になり、2班に別れて金剛多和へ登る事になった。

テーブル(沖崎)、テント、冷えたお茶・クーラー等の飲料水、ハウスみかん、甘夏柑、菓子等を手分けして担ぐ、風も無く蒸し暑い気候下で出発する。

川島車は、山在峠から戻り、下モ谷工事林道を辿ると、コンクリート砂防堤手前のサコから流出した土砂で底が擦り、少し戻り路側に駐車(8時30分)。

工事が一旦終了しているのので、三ヶ所落石・土砂の小崩落があったが、かなり急な工事林道をジグザグに登るも、小砂利の多い路面では足元が滑り登り難い。最後の崩落止めのコンクリート打ちの境を登り、約45分要して生活古道に到着。

小崩落箇所が無ければ4WD車なら、古道迄10分弱の地点へ走行可能である。



山在峠にて



砂防堤手前より歩く お茶・甘夏柑等テーブル上に



此処からは、なだらかな登りであり約20分を要し9時50分に金剛多和に着くと、山在峠班が先着(10時45分)していた。テーブル上に冷えたゼリー菓子・ミニトマト、お菓子、甘夏柑、紙コップが準備乗せられ、法螺の音が聞こえたので程なく到着かもしれないと竹林院一行13名を待つ。

雨除けのテントを持参したが張らずに済んだ。法螺の音がするが中々到着せず、焚火で児嶋氏コーヒを煎れる。

竹林院一行は、10時50分に到着され勤行。ハウスみかんも出され、冷茶(2L×2本)・ポカリスエット(2L×2本)・クーラー(2L×1本)及び菓子で喉を潤し小休止して頂く。

持経宿へストーブを寄贈して下さいました中島様、福井良盟院主さん御子息に、お礼とご挨拶をする。御礼2万円を頂戴した。竹林院一行は、11時15分に吹越宿跡へと出立され、「気をつけて!」「満行されますように!」と声をかけ見送る。



竹林院到着待ち



竹林院金剛多和で勤行



暫らくくつろぎ



竹林院出立



金剛多和での接待者

我々は、軽い昼食を済ませ、11時45分金剛多和から引き返す。下モ谷山腹工事林道班には、奥村氏に加わり4名で下山。この頃より、遠くから雷鳴が響き渡り、雨が降る心配があるが、明るい曇り空であり暫らく大丈夫そうである。

崩落箇所を最初に山腹を横切る地点には、手摺の着いた生活古道が整備されている。崩落箇所で尾根へ登る迂回路を通らなくとも、従来通りの古道に取り付く事が出来る様になっていた。

駐車地まで45分下り、12時50分過ぎに世界遺産・熊野本宮館の駐車場に着く頃から雷鳴が激しくなり、13時過ぎから雨が降り出す。

13時20分過ぎに沖崎・奥村車が到着。車に乗る迄には、雨にあわなかったとの事。又、山在峠に着くと、竹林院・院主さんの乗った28人乗りバスが迎えに待機し、昼食されていた。

雷鳴が激しく雨が13時頃から降り出し、竹林院一行は吹越宿跡迄行かずに、本宮大社参拝へ略一緒に走行して来たとの事。本降りとなり、13時半過ぎに解散し各自帰路へ。

## 7月10日(月)

山上さんは、大雲取越えの色川辻へ11時過ぎに車で出向き、冷えた飲料水・お菓子等の差し入れに行って下さいました。

(記 川島)